

平成 22 年度事業報告

社団法人日本滑空協会

平成 22 年度事業報告

社団法人日本滑空協会

総 括

本年度は、年度計画とおり講習会イベントにより重点を置く形で、協会の方針である、グライダーを安全により楽しく質の高い、多くの人々に愛されるスポーツにするための事業を行いました。本年度実施事業のうち特筆すべきは、グライダーパイロットの中でニーズの高いテーマを扱った滑空スポーツ講習会の実施といえます。滑空界内外から約 300 名の方が集まり、そのうち約半数以上が協会会員外だったことを踏まえると、滑空スポーツの普及に貢献できたといえます。

滑空スポーツの技量維持・向上に関する事業（滑空スポーツ愛好者育成事業）

1. 資格認定

1-1 グライダーパイロットの養成（指定航空従事者養成施設）

自家用操縦士の養成 - 本年度は下記 6 名を養成

期	訓練所	修了日	修了者	
1	宝珠花	6月5日	3	岩崎竜平 榊原瑛人 田中 敦
2	関宿	11月25日	2	日下部祐一 高橋 茂
3	板倉	4月20日	1	劔田将隆

指定航空従事者養成施設運営委員会 定例運営委員会(2011.3.26)

10月12日付航空局通達(国空乗第351号)に基づき、安全管理規程を制定し、施設内の安全管理体制の構築と維持を図ることを確認。23年度(2011.4.1~)より運用する。

1-2 国内滑空記章認定登録、交付業務

本年度(2010.4.1~2011.3.31)記章登録実績:()内は年度内登録分のバッジ交付数

A章 88件(22) B章 77件(11) C章 55件(7) 銅章 45件(13)

昨年度に比べ登録総数は約2割減少している反面、銅章登録数は増加している点を鑑みるとグライダーパイロットの全体的技量向上の底上げがされていると思われる。

本年度中の滑空記章試験員新規登録者数:3名

試験員の本年度における各章認定実績

相島正敏氏(26) 池田 亨氏(1) 板倉増彦氏(4) 伊藤克憲氏(1) 井上善雄氏(6) 内海敬三氏(7)

岡村治彦氏(1) 奥平光保氏(21) 小野一夫氏(2) 栗山 修氏(3) 児玉 敦氏(1) 榊原飛鳥氏(2)

佐々木 泉氏(7) 佐志田伸夫氏(2) 佐藤一郎氏(2) 茂田慶一氏(22) 島田俊輔氏(4) 篠原治男氏(2)

下平一晴氏(8) 末永里美氏(1) 田口 昇氏(2) 田中 廣氏(11) 都築位兆氏(20) 土屋宣幸氏(15)

富山 晋氏(7) 中村則之氏(1) 中村治夫氏(9) 野田迪郎氏(4) 日口裕二氏(7) 深田 浩氏(16)

堀田省二郎氏(6) 水川 毅氏(6) 三輪一弘氏(3) 山田徳義氏(12) 吉田 哲氏(1) 吉田 茂氏(4)

吉田 正氏(2) 吉田正克氏(16)

日本滑空記章規程ならびに試験員規程を一部改定し、これまで記章登録履歴がない者からの認定登録申請の際は、初回データ登録料を徴収することとし、申請書様式も変更した。また、試験員の資格要件からスポーティングライセンス保有義務を除外した。(FAI公式立会人を兼務する場合は、記録認定の権限があるため、引き続きスポーティングライセンス保有義務は維持している。)

2. 技量維持向上

2-1 安全飛行大会 2010

飛行の安全と技量向上を目的に、異常姿勢(スピン、ストール等)の状態を実際に体験し、正常姿勢への回復操作学ぶトレーニングと座学講習を平成22年度スポーツ振興くじ助成金対象事業として福井空港、関宿滑

空場での開催を企画、準備を進めていたが、福井大会開時に台風が襲来し、実施を見合わせた。以後、日程の再調整を試みるも降雪による悪天候が続いたため、同大会を中止にした。関宿大会単独開催では助成金事業として成立条件が満たすことができなかつたため、やむなく安全飛行大会 2010 を全面中止とした。(助成対象事業中止申請を(独)日本スポーツ振興センターに受理された。)

2-2 滑空スポーツ講習会 2010

平成 22 年度スポーツ振興くじ助成金対象事業として全国主要都市で全 6 回開催。

「グライダースポーツをより楽しく安全に生涯に亘って続けるために」の視点から、5 テーマ(気象、ソアリング技術、空域・航法、健康)について専門的かつ独自性の高い講義を行った。中でもクオリティーの高いソアリングをする上で必要不可欠な気象知識については、ウェザーニューズ社の全面協力のもと、グライダーパイロット向けに特化した内容を扱った。また、今回設定したテーマはグライダーに限らず、ハンググライダーなど他の航空スポーツにおいても共通する点も多く、グライダーパイロットだけでなく、ハング、パラグライダーのフライヤーも参加した。

日時	地区・会場	受講者数 ()内 25 歳以下	
11 月 20 日	東京・航空会館	36 (11)	ソアリング技術：50～100 kmフライト 気象
12 月 4 日	大阪・大阪科学技術センター	57 (17)	気象 ソアリング技術：クロスカントリー入門
12 月 12 日	千葉・NPO 関宿滑空場	49 (7)	ソアリング技術：クロスカントリー入門 気象
1 月 29 日	愛知・AP 名古屋・名駅	54 (0)	空域・航法 気象
2 月 26 日	東京・航空会館	50 (4)	健康 気象
3 月 5 日	北海道・かでの 2・7	43 (0)	空域・航法 気象
講師		講習テーマ	
株式会社ウェザーニューズ 内藤邦裕氏、飯田和雄氏、本田真一氏		気象 ソラヨミ (SORAYOMI) for Cross Country Flight	
早稲田大学 OB チーム 江浦頌太氏、河村直貴氏、森田 葵氏、山崎泰和氏		ソアリング技術：50～100 kmフライト 国内(関東平野)での銀 C 章獲得事例研究その 1	
社団法人滝川スカイスports振興協会 日口裕二氏		ソアリング技術：クロスカントリー入門 クロスカントリーのつぼ：ファーストクロスカントリー ～準備と実践～	
社団法人日本滑空協会 空域担当 鈴木重輝氏		空域・航法 空域・航法の基礎知識	
FAI 国際医事委員会 嶋田和人氏		健康 グライダーを生涯スポーツに	

2-3 航空安全講習会(技量維持連絡会)

国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係るガイドライン”に基づく講習会を開催(全 32 回)、このうち当協会主催講習会は 7 回。講師総数 78 名のうち当協会推薦認定講師として 30 名登録。講習会運営にあたり、(社)日本航空機操縦士協会が(財)空港環境整備協会の助成金を受け、当協会他、(社)日本飛行連盟、NPO 法人 AOPA-JAPAN、全国自家用ヘリコプター協議会と技量維持連絡会を構成。定期的に連絡会議を行い、講習会を企画、実施した。連絡会は全 4 回(第 1 回 2010.5.20 第 2 回 2010.7.15 第 3 回 2010.9.9 第 4 回 2010.12.9)開催した。

認定講師研修会	4月～6月 東京・札幌・大阪・仙台・熊本・名古屋において計7回開催			
航空安全講習会	日 時	開催場所	受講者数	講師
	6・26	神奈川	18	中村則之氏「空中衝突の回避」 玉中宏明氏「航空法の理解を深めよう」 齋藤幸雄氏「ディスカッション；NAV」(招聘)
	7・3	岐阜	43	田口 昇氏「ウィンチ曳航を安全に」 山田徳義氏「積極的に交信しよう」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむために」
	8・28	静岡	9	濱 俊夫氏「ウィンチ曳航について」 田中 廣氏「チェックリストの利用について」 鈴木重輝氏「最近の事故事例について」
	10・23	東京	30	大澤一朗氏 「初めてのATC (AIR TRAFFIC CONTROL～適切な コミュニケーションを取りましょう)」(招聘) 麻生真也氏「グライダーは厄介者であることの認識」 中村暢宏氏「ディスカッション；ヒヤリハットについて」
	12・18	長野	29	小川高昭氏「ヒヤリハットで我がふりなおせ」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむために」 齋藤幸雄氏「ディスカッション；NAV」(招聘)
	12・19	山口	14	末永里美氏「航空法第92条」 鈴木重輝氏「事故事例紹介」 吉田 徹氏 「地上の副操縦士 FSC を活用しよう トピックス(航空法改正、空域の再編等)」(招聘)
	2・5	山梨	22	鈴木重輝氏「事故事例紹介」 吉田 徹氏 「地上の副操縦士 FSC を活用しよう トピックス(航空法改正)」(招聘) 齋藤幸雄氏「ディスカッション；NAV」(招聘)

2-4 モータグライダーフライング・イン(生地着陸研修会)(2010.5.23 於千葉県 関宿滑空場)
天候不順のため、やむなく中止とした。

・ 滑空スポーツ競技会に関する事業

1. 競技会支援、後援事業

1-1 当協会名義後援競技会

- ・ 第6回おおのローズカップ(2010.5.2～4 於岐阜県・大野滑空場)
団体・個人優勝者へ賞状授与(滑空奨励賞)
(団体) 優勝:くるくるとんぴ10 (個人) 優勝:小林俊一
- ・ 第28回久住山岳滑翔大会(2010.5.16～22 於大分県・久住滑空場)
最優秀選手(基本滑翔競技)へ盾ならびに賞状授与(滑空奨励努力賞)
基本滑翔競技・優勝 上田 翼(龍谷大学)
- ・ 第14回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会(2010.8.10～18 於埼玉県・妻沼滑空場)
団体・個人優勝者へ賞状授与(滑空奨励賞)
(団体) 原田覚一郎杯:青山学院大学Aチーム (個人) 最優秀選手賞:井口知彦(青山学院大学)
- ・ 第13回東京六大学対抗グライダー競技会(2010.8.21～28 於埼玉県・妻沼滑空場)

団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(社団法人日本滑空協会賞)
(団体) 優勝:慶應義塾大学 (個人) 優勝:森 研人(慶應義塾大学)

- ・第13回全日本学生グライダー新人競技大会(2010.10.10~16 於岐阜県・木曾川滑空場)

団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(社団法人日本滑空協会賞)
(団体) 優勝:慶應義塾大学 (個人) 優勝:堀 雄一(名古屋大学)

- ・第50回全国七大学総合体育大会航空の部(2011.2.23~3.1 於千葉県・関宿滑空場)

大会審判委員長として常務理事 坂井正一郎が就任

団体優勝校・個人準優勝者へ賞状授与(滑空奨励賞)

(団体) 優勝:名古屋大学 (個人) 優勝:波多野高斗(名古屋大学) 第2位:粟津浩介(京都大学)

* 下記、2大会については、3月11日東北地方太平洋沖地震の発生により大会不成立または中止となった。

- ・第51回全日本学生グライダー競技選手権大会(2011.3.5~13 於埼玉県・妻沼滑空場)

大会顧問として会長 牧野 健が就任

団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(社団法人日本滑空協会賞)(大会不成立により主催者より返還)
なお、競技6日目(3月11日)までの結果を通算成績として認定された。

(団体)第1位:名大 Discus(名古屋大学) (個人)第1位:小桧山 健(日本大学)

- ・第40回早慶対抗グライダー競技会(2010.3.15~21 於埼玉県・妻沼滑空場)

団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(社団法人日本滑空協会賞)(大会中止により不授与)

2. 国際競技会選手派遣/出場支援・結果報告

- ・第31回FAI世界滑空選手権大会(31thFAI World Gliding Championship 2010)

(2010.7.24~8.6 於ハンガリー共和国・セグド)

18mクラス 24位 市川 展(Ventus 2)/51名

3. スポーティングライセンス支援事業:ライセンス申請代行業務(一部共済事業)

会員からの申請については交付申請書を受付、統括団体として承認した後、申請料は協会が負担して(財)日本航空協会へ代行申請した。会員外から申請があった場合は、申請料は当事者負担のもと統括団体として審査、承認後、代行申請した。

ライセンス保有会員数:139名(新規3名、更新3名、継続133名)

滑空スポーツ普及に関する事業

1. 航空イベントへの出展、参加協力

- 1-1 スカイ・レジャー・ジャパン10イン福井(2010.9.25、26 於福井県 福井空港)

大野グライダークラブ、財団法人日本学生航空連盟の協力もと、各種グライダーによるデモフライト

(Disucus bT、曲技:ASK21、編隊:スーパーディモナ、ロータックスファルケ)を企画、実施のほか、ASK23Bの地上展示、ブースの出展をした。

2. 関係諸団体等への情報提供・答申・提言

2-1 空域関係

- ・第8回関東西部地区飛行連絡会(2010.7.7 於 航空自衛隊入間基地)担当:鈴木重輝氏
- ・第9回下総航空基地周辺飛行安全会同(2010.9.22 於 海上自衛隊下総航空基地)担当:鈴木重輝氏

滑空スポーツ統括団体としての事業

1. 調査事業

- 1-1 滑空場、滑空団体統計

2010年度末時点における滑空場、滑空団体統計を集計。

国内60滑空団体に照会し、うち回答のあった19団体についての集計データは、別紙に掲載。

最終調査結果は、ホームページならびに機関誌において順次報告をする予定。

2. 連携事業：航空関係諸団体との連携、情報共有

2-1 航空スポーツ連絡会(2011.2.2 於東京都 航空会館)

FAIのNACである(財)日本航空協会より国内統括団体として認定されている各種航空スポーツ8団体と国土交通省航空局レジャー航空指導室から構成され、FAI関連の報告と各団体の年間活動報告がなされた。

2-2 FAI委員会

FAI国際滑空委員会(IGC)日本代表委員として常務理事 甲賀大樹氏を、FAI国際医事委員会(CIMP)日本代表委員として嶋田和人氏を(財)日本航空協会を通じて推薦、両国際会議に派遣した。昨年度に引き続き嶋田氏はCIMP副会長を務めた。

- ・ FAI国際医事委員会(CIMP)理事会・総会(2010.6.18~20 於スイス・ローザンヌ)
- ・ FAI国際滑空委員会(IGC)総会(2010.3.5~6 於スイス・ローザンヌ)

2-3 表彰・記録樹立

- ・ FAI賞推薦(受賞伝達式：2010.9.21「空の日」 於(財)日本航空協会)
エア・スポーツ・メダル：鈴木康一氏
- ・ 日本記録樹立者表彰(2010.9.21 於(財)日本航空協会)
表彰者：廣常朱美氏(オープンクラス女子 100km三角コース速度 2009.12.30 樹立)
市川 展氏(オープンクラス一般 自由往復距離 2009.1.26 樹立)
- ・ 記録樹立：日本記録(オープンクラス一般)
自由三角コース距離 梅谷堅三氏 1,047.77km(2010.12.9 於ナミビア共和国・ビッテルバッサー / 2011.1.11 認定)

3. 情報発信事業

3-1 機関誌発行

国内外の滑空スポーツ事情、滑空クラブ等の活動報告を掲載。会員ならびに関係諸団体等に頒布。

JSAINFO 291(2010.7 発行)、292(2010.11 発行)、293(2011.3 発行)

編集会議(2010.8.28)

3-2 HP 運営

滑空団体・滑空場マップにあらたに滑空場別の滑空場チャートを開東・北海道地区を先行アップロードし、ダウンロード可能にした。滑空場チャートは、今後も順次追加していく予定。

法人管理業務

1. 本年度開催会議

通常総会 全2回(第1回2010.6.5 第2回2011.2.26)

理事会 全2回(第1回2010.6.5 第2回2010.1.22)

常務理事会 全2回(第1回2010.7.5 第2回2011.1.19)

2. 会員情報

本年度入会者数12名(正会員8名、Jr.会員4名)

2011.3.31 現在登録会員総数 625名(団体：6、個人正会員：606名 個人Jr.会員：13名)

以上

所属者統計

団体名	所属者数	技能証明所有者					教育証明保持者	耐空検査員	整備士	FAI滑空機公式立会	日本滑空記章試験員	認定講師	気象予報士	ウィンチドライバー
		合計(実数)	陸上単発	動力滑空機	上級滑空機	その他								
(公社)滝川スカイスポーツ振興協会	224	119	53	50	108	17	23	2	13	3	3	2	1	8
北海道大学体育会航空部	8	1			1									
北海道大学体育会航空部OB会	157		6	7	89		5		4	1	1	1		
エアロスポート北海道	41	27	9	20	10	2	3							
旭川航空協会	22	12	5	4	11	1	2	1	3					7
(社)日本グライダークラブ	157	102	34	38	118	10	35	5	21	10	14	5		
三田ソアリングクラブ	35								3		3	1		
NPO学生航空協会	105	24	4	4	24		6	1	6		1			10
京浜ソアリングクラブ	45	30	5	10	30		8		1	1	1	2		
アサヒソアリングクラブ	28	15	7	6	14	1	4		2					3
紺碧ソアリングクラブ	60	60	5	6	60		21	1	11	4	3	2		
工学院大学一部体育会航空部	5	3			3		3		1		1			
鳳飛行倶楽部	82	45	6	45	9	1	3	1	2		2	1	2	
大野グライダークラブ	180	130	30	32	130		50	2	20	1	8	2		8
中国航空協会	32	16	1	1	16		3		1		1	2		
関西エアロスポートクラブ	35	19	4	9	19		9	1	2	2	2	1		
岡山グライダークラブ	18		2	11	6		4	1	2				2	
北九州グライダークラブ	25	16	3	3	13	1								3
(学)日本航空学園		11	7	10	8		3		5					
合計	1259	630	181	256	669	33	182	15	97	22	40	21	3	39

機体・設備関係統計

団体名	宿泊施設	格納庫	整備場 工作室	曳航 ウィンチ	所有 曳航機	モーター グライダー	滑空機								
							滑空機 総機体数	所属 会員所有	借用 機体	単座・ ピュア	単座・ サステイナ	単座・ セルフロン	複座・ ピュア	複座・ サステイナ	複座・ セルフロン
(公社)滝川スカイスポーツ振興協会	1	2	1	1	2	1	15	16	12	7	1		6		2
北海道大学体育会航空部		1		1			3				3				
北海道大学体育会航空部OB会													1		
エアロスポート北海道						1									
旭川航空協会		1		1			3				2		1		1
(社)日本グライダークラブ	1	1	2		1	1	4	27		22	1	3	4	2	2
三田ソアリングクラブ							1	3		2		1		1	
NPO学生航空協会				1			10	1	2	8		2			
京浜ソアリングクラブ						3	6	1	3	2		3	1		2
アサヒソアリングクラブ					3					2			1		
紺碧ソアリングクラブ					3					2			1		
工学院大学一部体育会航空部					1								1		
鳳飛行倶楽部	1	2				2		6	1						
大野グライダークラブ	2		1	2			5	2	3	1	1		2	1	
中国航空協会	1	1		1			4	2			3		1		
関西エアロスポートクラブ	1						1	4			2		1		1
岡山グライダークラブ		1					2								
北九州グライダークラブ	1	2	1				1						1		
(学)日本航空学園		1	2	1		1	4								
合計	8	12	7	8	10	13	60	58	21	56	3	7	23	4	8

飛行活動統計

滑空場	団体名	総発航			ウィンチ曳航発航			飛行機曳航発航			自力発航			備考
		回数	時間	分	回数	時間	分	回数	時間	分	回数	時間	分	
たきかわスカイパーク	(公社)滝川スカイスポーツ振興協会	3737	1736	56	133	21	0	3085	1491	48	519	224	8	上記に含まれる
	北海道大学体育会航空部	(164)	(59)	(35)	(14)	(2)	(35)	(150)	(57)	(0)				
丘珠空港	エアロスポート北海道	423	302	55							423	302	55	
丘珠空港以外		25	40	0							25	40	0	
当麻滑空場	旭川航空協会	624	143	36	537	102	47	1		11	86	40	38	
板倉滑空場	(社)日本グライダークラブ	1222						1121			101			
	三田ソアリングクラブ													
読売大根滑空場	NPO学生航空連盟	851	174	47	851	174	47							
関宿滑空場	京浜ソアリングクラブ	485	191					326	101		159	91		
	アサヒソアリングクラブ	588	289	11				588	289	11				
	紺碧ソアリングクラブ	106	94	22				106	94	22				
	工学院大学一部体育会航空部	142	61	11				142	61	11				
	北海道大学体育会航空部	41	9	57	37	7	17	6		2	40			
白老滑空場	(学)日本航空学園	304	272	40							304	272	40	
双葉滑空場	(学)日本航空学園	521	200	23				272	39	58	249	160	25	
	鳳飛行倶楽部													
能登空港	(学)日本航空学園	746	660	35							746	660	35	
大野滑空場	大野グライダークラブ	2695	509	50	2695	509	50							
福井空港		39	27	18				39	27	18				
昌久滑空場	関西エアロスポートクラブ	535	164	29				231	69	18	304	95	11	
岡南飛行場	岡山グライダークラブ	174	82	35							174	82	35	
防府基地	中国航空協会	397	58	13	397	58	13							
阿蘇観光牧場飛行場	北九州グライダークラブ	237	31	6	237	31	6							
合計		13015	4596	23	4850	898	43	5075	1729	33	3090	1970	7	